

## 夢洲調査報告 20190617（野鳥）

公益社団法人 大阪自然環境保全協会 生物多様性委員会

6月17日には、野鳥の生息状況を見に行きました。

結果を申しますと、コアジサシの繁殖の確認はできませんでした。しかし巣材を運ぶコアジサシを見かけたので、繁殖がゼロとは言えません。が、夢洲の土地の状態は日々変わっていくので、コロニーが作られる可能性は非常に低いと思われます。

下見にいった1月、現地視察をした5月に比べると、季節的にも野鳥の数は大変すくなくなっておりましたが、子育て中のカルガモの姿も見え、いろいろな野鳥の繁殖地にはっている様子でした。

なお、当日、繁殖適地の砂利広場の間の道で、ヌートリア2匹がじゃれあっているのを目撃しました。

当日の調査結果は以下のとおり。（調査員：大阪自然史博物館 和田岳主任学芸員）

確認した鳥種：マガモ、カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、ドバト、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、バン、オオバン、コチドリ、コアジサシ、トビ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ 以上24種

以上の鳥種の内、繁殖関連の観察

カルガモ：巣立ちピナ連れ

カイツブリ：抱卵中の巣

バン：繁殖適地で複数個体を確認

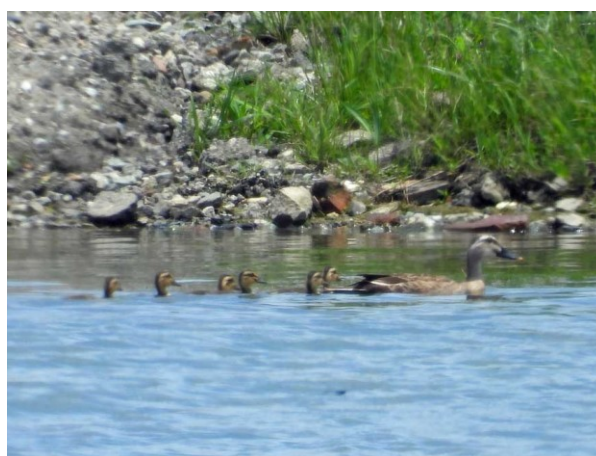
コチドリ：繁殖適地で確認

コアジサシ：繁殖適地で少なくとも3羽確認。1羽の餌運びを確認。

ただし巣やヒナは確認できず。餌を運んでいった方向からは夢洲内の可能性が高い。

ヒバリ：繁殖適地で囀り

セッカ：繁殖適地で囀り



（写真／小野款司 文責／加賀まゆみ）